

会報

# METAL FORM

一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

No. **62**  
2017年4月

**MF-Tokyo 2017 プレス・板金・フォーミング展  
開催情報特集号**

## CONTENTS

### ぼてんしゃる

- 2 『MF-Tokyo 2017』開催への意気込み そして高い信頼と技術力を持つ日本への期待  
日刊工業新聞社 取締役社長 井水 治博

### MF Tokyo 2017 Information

- 3 過去最大規模で開催!~その先の未来へつなぐ、ものづくり~ をテーマに  
『MF-Tokyo 2017 第5回プレス・板金・フォーミング展』が開幕  
4 MF-Tokyo 2017 開幕記念講演・特別講演・シンポジウムの企画内容  
5 MF-Tokyo 2017 展示小間/出展企業一覧 262社出展・1,653小間と過去最高の展示規模での開催

### 会員企業訪問

- 7 国内最大の実績を誇るファインブランキングプレスをはじめ、ハイテク技術を駆使した液圧プレスを製造  
森鉄工株式会社  
9 高精度のヘッダー・フォーマーを製造創業105年、高い技術力を誇る世界屈指のメーカー  
株式会社中島田鉄工所

### 新入会員紹介

- 11 大陽日酸株式会社  
12 バイストロニックジャパン 株式会社

### 報告

- 13 報告I MF技術大賞2016-2017表彰式と2017賀詞交歓会  
14 報告II 各地で工場視察会、講習会、セミナーを開催  
中部関西地区部会 工場視察見学会を開催/中小企業青年委員会 経済連携協定(EPA)活用講習会/中小企業青年委員会 平林亮子先生 事業継承セミナー  
15 報告III TIMTOS 2017出展報告  
16 報告IV 中小企業経営強化税制(2017年4月1日以降施行)の証明書について  
報告V 第15回「天田財団助成研究成果発表会」の開催案内

### INFORMATION FILING

- 17 新聞報道から見た会員動向(2016年12月~2017年3月)  
鍛圧機械 全会員受注グラフ(月次業況調査)/鍛圧機械 全会員受注グラフ(業況調査)

### 工業会の動き (1月~3月)

#### 理事会

- ・第44回(1月16日) 書面) 技術顧問委嘱 等
- ・第45回(3月16日) 事業報告、決算予算等について

#### 正副会長会

- ・第25回(1月11日) 人事案件について
- ・第26回(3月16日) 人事案件等について

#### 委員会

- 企画委員会
- ・第1回産学連携推進チーム会議(1月23日) 産学連携について
- 技術委員会
- ・第4回(2月8日)ISO、JIS、産学連携について 等
- ISO/WG1対策委員会
- ・第13回(1月10-11日)ISO/TC39/SC10/WG1 国際会議ISO 16092-1及び3-SCEN コンサルタントの騒音コメント審議など(米国・テキサス)

- ISO/WG12対応チーム委員会
- ・第18回(2月16日)ISO 14955-4修正ドラフト提案内容について審議
- 中小企業青年委員会
- ・第5回(1月24日)経済連携協定(EPA)活用講習会、EPA・FTAの現状と利用方法について
- ・第6回(2月24日)事業継承セミナー、事業継承について

#### 専門部会

- サービス専門部会
- ・第4回シャー分科会(2月14日)シャーの安全措置・安全装置について
- ・第6回(3月17日)MFスーパー 特自検実施状況、分科会進捗状況について
- 鍛造プレス専門部会
- ・第7回(2月14日)「鍛造プレスとは(入門編)」修正原稿最終確認
- 油圧プレス専門部会
- ・第5回(3月22日)「油圧プレスとは(入門編)」と「油圧プレスのメンテナンス(入門編)」冊子化最終確認
- レーザー・プラズマ専門部会
- ・第7回(3月2日) ファイバーレーザー加工機安全講習会実施案、安全講習会テキスト見直し等

#### 地区部会

- ・第2回中部関西地区部会(2月10日)工場視察見学会(岐阜)

#### 説明会

- MF-Tokyo 2017出展者説明会
- ・(3月14日)展示会出展に際しての説明(東京ビッグサイト)

#### 新年賀詞交歓会

- ・(1月11日)懇親・芝パークホテル

#### MF技術大賞2016-2017表彰式

- ・(1月11日)MF技術大賞/優秀賞表彰(芝パークホテル)

#### 会員入会

- 2017年1月1日付入会
- 大陽日酸株式会社
- 代表者:市原 裕史郎
- 代表取締役社長 兼 CEO
- 会員代表者:河野 靖彦
- 執行役員 ガス事業部長



## 会報 METAL FORM No.62 2017年4月

発行所/一般社団法人 日本鍛圧機械工業会  
〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館3階  
TEL.03-3432-4579 FAX.03-3432-4804 URL: https://j-fma.or.jp/  
発行人/中右 豊 発行/季刊:1月、4月、7月、10月の4回発行

■本誌に掲載した記事の無断転載を禁じます。

## 『MF-Tokyo 2017』開催への意気込み そして高い信頼と技術力を持つ日本への期待

日刊工業新聞社 取締役社長

井水 治博



### 本年、最大規模で開催する『MF-Tokyo 2017』

私ども日刊工業新聞社は2015年11月に創刊100周年を迎え、「100年企業」の仲間入りを果たすことができました。これもひとえに皆様のおかげと感謝しております。この場をおかりして御礼申し上げます。

そして今年で5回目を迎える、日本鍛圧機械工業会と日刊工業新聞社主催の『MF-Tokyo 2017 第5回プレス・板金・フォーミング展』（2017年7月12日～15日）が、過去最大規模で開催されることになり心よりうれしく思います。第1回が出展企業200社、700小間であったのが、前回（第4回）では出展企業270社、1300小間に広がり、そして今回（第5回）は、東京ビッグサイト（東京国際展示場）の4ホールを使用して、展示小間数1500小間、来場者数32,000人を目標にしています。

『MF-Tokyo』は回を重ねるごとに皆さまから認知される展示会となり、国内や海外からの新規出展企業もかなり増えています。毎回のことですが、やはり国内の主力メーカーにはとても勢いを感じますし、周辺機器メーカー、板金加工メーカーの出展も増えており、とても良い傾向で認知度が上がっていると実感しています。また、実物の工程を目の前で見ることのできる展示会は少なく、今回も様々なメディアを有効に活用し、その魅力をアピールして成功に導き、必ずやご満足いただける展示会にしたいと考えております。

### 世界で活躍する日本の、これからが楽しみ

昨年、視察でインドへ行きましたが、以前に比べ競争がかなり激しくなっています。しかし、日本の鍛圧機械のブランド力の高さやバックボーンとし

ての信頼は厚く、世界市場で戦っていける力が十分であると確信し、日本企業の底力に改めて感心いたしました。

日本の機械は決して安くはないのですが、信頼性が抜群に高いため、誰もが日本のメーカーの製品を望んでいます。近年では台湾や中国のメーカーも頑張ってきており、価格競争ではまだ強みがありますが、人件費の高騰などでコスト面のメリットは減少し、今日まで築き上げてきた実績のある日本にとっては、今後も大きなビジネスチャンスであることは間違いありません。

もう一つ市場を見て思うことは、鍛圧加工と板金加工の垣根がなくなり、複合加工が注目されているということです。どちらも日本は世界トップレベルの技術を備えていますので、双方のコラボレーションをいかに上手く活用していくかが次世代の課題といえます。

また、鍛圧と板金、各々の分野の向上には産学連携も重要な要素です。その点では上手く機能しているドイツを研究し、まだまだ工夫の余地のある日本の産学連携の取り組みに協力していきたいと思っています。

さらに、IoTや第4次産業革命が今話題ですが、予防診断など新しいトレンドを推進し、この分野でも日本の技術を世界ブランドにしてほしいと願っています。

このような状況の中で、日本鍛圧機械工業会は、様々な取り組みをしっかりとやっていますし、MF技術大賞やMFエコマシンなど次世代の技術促進に大変貢献されていると思います。これからも共に強固な組織づくりを目指して、協力していければと考えております。

（談）

# 過去最大規模で開催！～その先の未来へつなぐ、ものづくり～を『MF-Tokyo 2017 第5回プレス・板金・フォーミング展』が開幕



## 会期

2017年7月12日(水)～15日(土)  
9:00～17:00  
初日 10:00～17:00  
最終日 9:00～16:00

## 会場

東京ビッグサイト 東4・5・6・7ホール



MF-Tokyo 2015 会場風景

## 5回目の開催を迎える「MF-Tokyo プレス・板金・フォーミング展」

2009年にスタートした「MF-Tokyo プレス・板金・フォーミング展」は、今回で5回目の開催を迎えます。出展規模も回を重ねる毎に拡大し、2017年は、262社1,653小間(2017年3月23日現在)とこれまでで最高の展示規模での開催となります。本展示会は、鍛圧機械の専門展示会として国内外に広く認められ、定着してきたものと考えています。

併催行事は開幕記念講演・特別講演・シンポジウムが右記内容で開催、学会テクニカルセミナーは日本塑性加工学会、レーザー加工学会、日本ばね学会、日本ねじ研究協会の協力の下に4日間にわたり23講座を、出展者テクニカルセミナーは今回は従来の40分セミナーに加え、ロングバージョンのセミナーや日鍛工レーザープラズマ専門部会からファイバーレーザー加工機安全講習会も開催、計3つの会場で70講座超実施されます。

そのほか、特別協賛団体の日本塑性加工学会研究室の出展と併せたブースエリアで各研究室の研究発表、主催者コーナーにおいて、「MF技術大賞2016-2017」の受賞者パネルの展示や工業会事業のMFエコマシン認証制度とMFスーパー特自検制度も紹介します。

また、今回は産学連携企画として、わかりやすくプレス・板金・フォーミング等にゾーンニングされた小間レイアウトや展示物、技術・見どころ(賛同を得た会員企業のコメント掲載)について漫画やイラストを用いた学生向けガイドマップ(チラシ)を作成します。そのマップと連動した販促ノベルティ等を配布し、工学関係学生に鍛圧板金機械メーカーおよび製品・技術を将来のユーザとしてアピールしたいと思います。

## テーマに

## 開幕記念講演・特別講演・シンポジウムの企画内容

会場：東京ビッグサイト 会場内特設ホール（聴講約 500 人予定）

開催日時	時間	行事名	講演者
7/12 (水)	14:00-15:00	<b>開幕記念講演</b> マツダのブランド戦略とモノづくり革新	マツダ株式会社
7/13 (木)	14:00-15:00	<b>特別講演1</b> ファイバーレーザ加工技術 ～未来へつなぐ、ものづくり～ (仮)	株式会社 最新レーザ技術研究センター
7/13 (木)	14:00-15:00	<b>シンポジウム1</b> CFRPのプレス加工	<b>コーディネータ：</b> 金沢大学 教授 米山 猛氏 <b>パネリスト：</b> 株式会社エイチアンドエフ 川崎油工株式会社 コマツ産機株式会社
7/14 (金)	14:00-15:00	<b>特別講演2</b> 自動車向け先端材料としてのCFRPの 加工特性と適用例 (仮)	東レ株式会社
7/14 (金)	14:00-15:00	<b>シンポジウム2</b> CFRPの溶接加工	<b>コーディネータ：</b> 大阪大学 准教授 塚本 雅裕氏 <b>パネリスト：</b> 株式会社 I H I 澁谷工業株式会社 トルンプ株式会社

## ＜学会テクニカルセミナー＞

会場：東 5 ホール事務室、聴講各 150 人予定

1. 日本塑性加工学会教授陣 1 講座各 40 分、4 日間 17 講座
  2. 日本レーザ加工学会教授陣 1 講座 40 分、4 日間 2 講座
  3. 日本ばね学会教授陣 1 講座 40 分、4 日間 2 講座
  4. 日本ねじ研究協会 1 講座 40 分、4 日間 2 講座
- 合計 23 講座

## ＜日本鍛圧機械工業会の会員による出展者テクニカルセミナー＞

会場：東 4 ホール事務室と東 4 ホール内特設の 2 会場、聴講各 150 人予定

各メーカー技術講師 講演時間 40 分、4 日間 66 講座予定

## ＜日本鍛圧機械工業会の会員による出展者テクニカルセミナーロングバージョン＞

会場：東 7 ホール内特設会場、聴講各 150 人予定

各メーカー技術講師 講演時間 60～90 分、4 日間 6 講座予定

## ＜日本鍛圧機械工業会ファイバーレーザ加工機安全講習会＞

会場：東 7 ホール内特設会場、聴講各 150 人予定

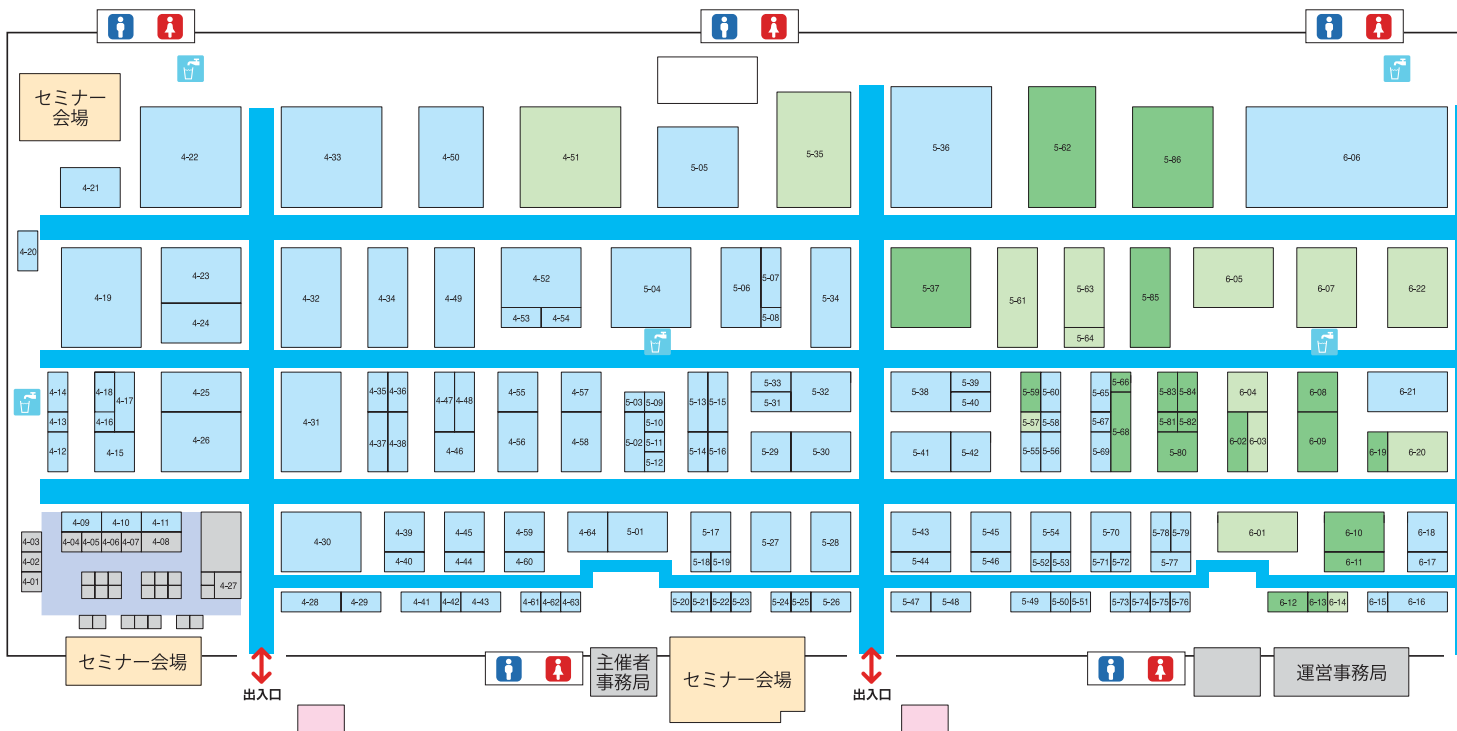
各メーカー技術講師 講演時間 60 分、4 日間 4 講座予定

## ＜日本塑性加工学会研究室による研究発表会＞

会場：会場内特設コーナー、約 30 人聴講

各研究室による研究発表 1 日 6-10 講座各 15 分、4 日間 30 講座前後予定

# 262社出展・1,653小間と過去最高の展示規模での開催



<日鍛工 会員>

出展社名	小間番号
<b>■ あ行</b>	
株式会社H物流産業システム	4-28
株式会社相澤鐵工所	7-15
株式会社アイシス	5-06
アイセル株式会社	6-32
アイデンエンジニアリング株式会社	5-05
アサイ産業株式会社	4-39
旭サナック株式会社	6-22
旭精機工業株式会社	5-86
株式会社アマダホールディングス	7-05
株式会社アミノ	4-50
株式会社板屋製作所	5-62
株式会社エイチアンドエフ	4-30
株式会社エーエス	4-40
エー・ピーアンドティー株式会社	5-29
株式会社エステーリンク	7-12
株式会社エヌエスシー	4-17
楠精工株式会社	
株式会社中部鍛造所	
榎本機工株式会社	4-25
オーセンテック株式会社	7-23
大峰工業株式会社	5-44
株式会社オプトン	5-61
オリメック株式会社	5-36
<b>■ か行</b>	
株式会社栗本鐵工所	4-24
株式会社ケイエステック	
ゲルプ・ジャパン株式会社	4-46
株式会社向洋技研	6-25
株式会社小島鐵工所	4-45
株式会社コニック	7-17
コマツ産機株式会社	6-06
株式会社小森安全機研究所	6-16
型研精工株式会社	4-34
川崎油工株式会社	5-34
株式会社ギア	5-03
株式会社キャドマック	7-17
キョウシンエンジニアリング株式会社	4-11
協和マシン株式会社	7-19

<b>■ さ行</b>	
株式会社版村機械製作所	5-35
株式会社サルバニーニジャパン	7-06
株式会社三共製作所	5-28
しのはらプレスサービス株式会社	4-22
澁谷工業株式会社	7-11
杉山電機システム株式会社	6-18
住友重機械工業株式会社	4-23
<b>■ た行</b>	
株式会社大東スピニング	6-28
ダイマック株式会社	4-56
大陽日酸株式会社	7-07
伊達機械株式会社	4-49
株式会社ティエスエイチインターナショナル	4-44
ティーエスプレジジョン株式会社	6-30
トルンプ株式会社	7-24
株式会社エフエーサービス	
<b>■ な行</b>	
株式会社中島鉄工所	5-37
Accuvision Technology Inc.	
株式会社三明製作所	
三豊機工株式会社	
株式会社中田製作所	6-35
ニシダ精機株式会社	4-59
株式会社ニッセー	6-20
日本オートマチックマシン株式会社	5-32
日本電産シンボ株式会社	4-31
NIDEC MINSTER CORPORATION	
<b>■ は行</b>	
バイカルマシン株式会社	7-10
バイストロニックジャパン株式会社	7-21
京葉ベンド株式会社	6-01
パスカル株式会社	4-26
ファナック株式会社	6-23
株式会社ファブエース	7-16
株式会社富士機工	7-13
株式会社フリーベアコーポレーション	6-17
株式会社放電精密加工研究所	4-32
<b>■ ま行</b>	
株式会社万陽	4-18

三菱長崎機工株式会社	4-13
村田機械株式会社	7-09
森鉄工株式会社	5-30
<b>■ や行</b>	
ヤマザキマザック株式会社	7-22
株式会社山田ドビー	4-33
株式会社山本水圧工業所	4-37
株式会社ユーロテック	7-08
株式会社ユタニ	5-38
株式会社吉野機械製作所	6-82
<b>■ ら行</b>	
株式会社理研オプテック	5-17
株式会社理研計器奈良製作所	5-26
ロス・アジア株式会社	5-08

<一般>

<b>■ あ行</b>	
アクア化学株式会社	5-70
浅井産業株式会社	6-62
株式会社アサダ	6-10
アズビルトレーディング株式会社	5-02
アプライドデザイン株式会社	5-69
株式会社Eプラン	6-53
株式会社石岡工範	4-42
株式会社伊藤製作所	6-64
株式会社WEL-KEN	6-42
内田工機株式会社	5-50
株式会社エイ・エム・シィ	4-09
株式会社エイム	6-54
永和ワールド株式会社	5-76
エコーロード・ジャパン株式会社	6-41
株式会社エスアンドエフ	6-11
MICO sr.I (ORT Italia)	
SMS group株式会社	4-36
SMS group GmbH	
SCSK株式会社	5-58
エステートレーディング株式会社	6-63
株式会社NTTデータエンジニアリングシステムズ	4-21

株式会社オ・エス・ワイ	6-03/14
CHING CHAN OPTICAL TECHNOLOGY CO., LTD. (CCM)	6-14
JERN YAO ENTERPRISES CO., LTD.	6-03
3View.Com Inc.	
大石機械株式会社	5-78
株式会社オーエスアイツール	6-12
株式会社奥野機械製作所	5-80
<b>■ か行</b>	
CREAFORM	5-40
株式会社群協製作所	6-50
株式会社KHエンジニアリング	5-79
株式会社ケームックス	5-49
株式会社理研計器奈良製作所	5-52
株式会社ゴーショー	6-31
SACMA Limbiate S.p.A.	
株式会社コーレンス	6-05
DREISTERN GmbH & Co. KG	
Heinrich Mueller Maschinenfabrik GmbH	
LASCO Umformtechnik GmbH	
Otto Bihler Maschinefabrik GmbH & Co., KG	
PSTproducts GmbH	
WAFIOS AG	
株式会社コスメック	5-47
株式会社コロナ社	4-04
株式会社片桐製作所	4-41
株式会社金型新聞社	4-07
株式会社兼松KKGK	5-27
GFM GmbH	
GLAMA Maschinenbau GmbH	
N.KO spol.s.r.o.	
Smeral Brno a.s.	
協同エンジニアリング株式会社	6-56
株式会社旭光製作所	6-70
株式会社グリーンプラス	6-49
<b>■ さ行</b>	
サンアロイ工業株式会社	4-64
株式会社サンエイテック	4-54
株式会社三益	6-65



三桂機械株式会社	6-09
株式会社藤製作所	
株式会社マツモトマシナリー	
株式会社三次元メディア	5-60
サンテス株式会社	4-62
株式会社シーケービー	5-33
ERNST GROB AG / Schuler Pressn GmbH	
シージーケー株式会社	5-23
株式会社ジェイアンドシー	4-52
JXエネルギー株式会社	4-35
株式会社JSOL	5-55
シグマテックジャパン株式会社	6-29
株式会社ジャロック	6-40
シュマルツ株式会社	4-47
株式会社商工経済新聞社	4-05
正田造機株式会社	5-84
昭和精機株式会社	5-46
昭和リース株式会社	5-75
株式会社シルバーロイ	4-60
シンコーマシンツール株式会社	5-85
株式会社SCREENホールディングス	5-43
株式会社スター精機	5-54
株式会社住谷製作所	6-45
ゼノー・テック株式会社	5-51
ゼロフォー株式会社	6-71
株式会社善光商事	6-02
株式会社ソルテック	5-72
■ 九行	
株式会社ダイナテック	4-10
株式会社大平製作所	5-66
太陽メカトロニクス株式会社	5-67
株式会社先端力学シュミレーション研究所	
株式会社宝精密	6-08
株式会社WTM	5-74

株式会社タマリ工業	6-55
中日クラフト株式会社	4-20
中部エンジニアリング株式会社	6-57
榑本興業株式会社	4-48
有限会社ティワイアソシエイツ	6-44
有限会社イージーデータジャパン	
テンボス株式会社	6-52
東亜精機工業株式会社	6-60
東栄工業株式会社	6-69
東洋研磨材工業株式会社	6-38
株式会社東洋プレジション	4-53
株式会社トミタ	5-73
Ortlinghaus-Werke GmbH	
トリプルアール株式会社	4-43
東京オイルアナリスト	
■ 八行	
中西金属工業株式会社	4-12
ニイガタ機械株式会社	4-16
株式会社大谷機械製作所	
株式会社ニコンインステック	5-42
株式会社ニコン	
株式会社ニチダイ	4-21
株式会社日刊工業新聞社	4-01-03/08/7-04
日伸工業株式会社	4-11
日新精機株式会社	6-34
日進精機株式会社	5-63
J.ノイ ジャパン	
日本タッパー株式会社	5-53
日本ウエルディング株式会社	6-27
日本計測システム株式会社	5-83
日本スピードショー株式会社	5-19
株式会社ヤマシタワークス	
日本ハードウェア株式会社	5-64

日本フェイウィック株式会社	5-77
GOIZPER Group	
日本フォーミング株式会社	6-59
■ は行	
ハイウィン株式会社	4-55
パイ加工機械工業会	6-01
株式会社オスガマシン	
京葉バンド株式会社	
大洋エンジニアリング株式会社	
日東造機株式会社	
服部板金工業有限会社	5-21
ハテバジャパン株式会社	6-07
株式会社ばね新聞社	4-06
枚岡合金工具株式会社	4-63
廣瀬ハルプ工業株式会社	5-22
ファロージャパン株式会社	5-39
福田交易株式会社	5-48
株式会社フジイ	5-81
富士ダイス株式会社	4-14
扶桑精機株式会社	5-65
株式会社フナボリ	6-48
株式会社プライオリティ	6-39
ブルーダラー・プレス株式会社	4-52
株式会社プロテクニカ・ジャパン	6-47
RCS co.,Ltd.	
豊栄工業株式会社	6-80
豊光エンジニアリング株式会社	5-82
■ ま行	
マーボス株式会社	4-38
マコー株式会社	6-66
マツモト産業株式会社	6-24
マツモト機械株式会社	

マルカキカイ株式会社	6-21
株式会社光栄製作所	
千代田工業株式会社	
丸昭機械株式会社	5-68
丸紅情報システムズ株式会社	5-56
株式会社ミットヨ	5-41
三菱電機株式会社	7-09
三星工業株式会社	4-61
有限会社アイ・エフ企画	
■ や行	
安川シーメンスオートメーション・ドライブ株式会社	4-57
安田工業株式会社	5-71
株式会社ヤマナカコーキン	4-15
山本光学株式会社	6-15
ユーザック株式会社	6-72
株式会社ユーロテクノ	5-20
湖川王冠株式会社	5-24
株式会社ユタカ	5-59
株式会社ユタカアドバンス	6-51
ユテックジャパン株式会社	6-46
ユニオンツール株式会社	6-19
ユニラムジャパン株式会社	6-81
株式会社吉増製作所	6-43
■ ら行	
ルブテック株式会社	4-29
株式会社レーザックス	6-50
■ A-Z	
BENTELER Maschinenbau GmbH	6-58
C-DOUBLE ENTERPRISE CO., LTD.	6-26
CHIN FONG MACHINE INDUSTRIAL CO., LTD.	4-58
DAEWON FORGING CO., LTD.	5-18
DONGSAN IND. Co., LTD	6-61
EF ENGINEERING COMPANY	5-31
F LADDER DANMARK A/S	7-14
HAWERS Co., Ltd.	6-67
HYODONG MACHINE CO., LTD.	4-51
AIR TECH21 CO., LTD.	
SAMJIN JEONGGONG CO., LTD.	
SHINKWANG PRECISION CO.	
Sung Won ENG CO., LTD.	
ISGEC HEAVY ENGINEERING LTD	5-01
Konfu Enterprise CO., LTD.	6-33
KORYO Precision Eng. Co., Ltd	5-25
LIEN CHIEH HYDRAULIC INDUSTRIAL CO., LTD.	5-45
株式会社新明和機工	
MFR Inc.	5-57
NUMALLIANCE	6-04
REGG INSPECTION S.r.l.	6-36
オフィス海外テック	
Schuler Pressen AG	5-07
SHIEH YIH MACHINERY INDUSTRY CO., LTD.	5-04
Taiwan Association of Machinery Industry	
CHIAN CHANG MACHINE CO.,LTD.	5-16
TOA DR ENTERPRISE CO., LTD.	5-10
DEES HYDRAULIC INDUSTRIAL CO., LTD.	5-12
FIDELITY DEVELOPMENT CORPORATION LTD.	5-11
JING DUANN MACHINERY INDUSTRIAL CO., LTD.	5-14
LIEN CHIEH MACHINERY CO., LTD.	5-09
SANES PRESSES CO., LTD.	5-13
TZYH RU SHYNG AUTOMATION CO., LTD.	5-15
WS. CO., LTD / IL KWANG CORPORATION	6-13
YIN SHEN MACHINER CO., LTD.	6-37
< 学会 >	
一般社団法人日本塑性加工学会	4-27
一般社団法人日本鍛造協会	4-19
一般社団法人日本工作機械工業会	7-01
一般社団法人日本ねじ工業協会	6-68
一般社団法人日本ばね工業会	6-79
一般社団法人日本自動車部品工業会	7-02
一般社団法人日本ロボット工業会	7-03
一般社団法人日本鍛圧機械工業会	
< 海外 >	
中国机床工具工业协会	6-76
中国鍛圧協会	6-75
中国模具工业协会	6-77
インド工作機械工業会	6-74
台湾機械工業同業公会	6-78

## 01 森鉄工株式会社

# 国内最大の実績を誇るファインブランキングプレスをはじめ、ハイテク技術を駆使した液圧プレスを製造

設立 95 年、世界に通用するメーカーを目指して常に技術力の向上と技術革新を促進

1922(大正 11)年、森共同肥料株式会社として設立。1944(昭和 19)年に森農工株式会社に変更し、農業機械の取り扱いを開始し、同時に修理工場も建設する。1948(昭和 23)年には地元の九州釜炒茶の産地で連続式炒り茶葉機を開発し、製造・販売を行う。1956(昭和 31)年から1982(昭和 57)年までの 25 年間にわたり、三菱電機長崎製作所の電気部品下請け製作(主に大型モーター)に従事し、回転機製造部との緊密な関係を構築。高度成長期の 1969(昭和 44)年には、三菱電機株式会社の資本参加を得て、商号を現在の森鉄工株式会社に変更。

そして、1971(昭和 46)年、下請け作業からの脱却を目標に、独自に油圧プレスの開発・製造・販売を開始。その後も、湿式磁場プレスや国産最大の揺動鍛造プレスなど、特殊なプレス機を開発・製造し、高い技術力や様々なノウハウを蓄積していく。

1981(昭和 56)年には平田プレス工業株式会社の要請を受けて、純国産ファインブランキングプレスの開発・製造を行う。「精密部品の複合成形加工によるコストダウンを実現するファインブランキングプレスは、実は開発から製造まで非常に手間のかかる製品なんです。現在では、弊社はこの分野で国内最大の実績を誇っています。ただ日本は今では飽和状態で約 90%が海外からの受注になっています。

さらに、冷間鍛造プレス、多軸ワンショットフォーミングプレス、揺動鍛造プレス、熱間鍛造プレス、粉末成形プレスなどをはじめとする弊社の豊富な製作実績を基に、これからも多様なニーズに応えていきたいと考えております。そのためにも世界に通用する一流メーカーを目指し、常に技術力の向上と技術革新を一層促進していきたいと思っております。

国内、海外からも注目される  
研究開発棟「ものづくり lab」

2015(平成 27)年に完成したのが、お客さまの工法開発トライアルに特化した研究開発施設「ものづくり lab(研究開発棟)」です。現在、国内はもとより、海外からも多くの企業や経営者、技術者が視察に訪れているという。「お客さまの工法開発トライアルを全面的にバックアップする目的でつくったのが『ものづくり lab』です。ここには多軸プレス 2 台、揺動鍛造プレス 1 台を設置しており、現在、FB プレス 8000kN も 1 台設置中です。

工法開発トライアルの基本的な流れとして、①製品検討・製品開発・工程開発・金型開発、②引合、③工程検討・金型検討・モーション検討・成形解析、④金型製作、⑤ものづくり lab にて、成形トライ試作、⑥プレス仕様検討(必要最小限のプレス仕様)、⑦プレス見積、⑧プレス製作、⑨プレス搬入・据付となっています。工法開発トライアルをお考えの方は、ぜひ一度、ご来社いただければと思っています。



工法開発トライアルに特化した研究開発施設「ものづくり lab(研究開発棟)」





森 孝一  
代表取締役社長

森鉄工株式会社

〒 849-1302  
佐賀県鹿島市大字井手 2078  
0954-63-3141(代)  
<http://www.moriiron.com>

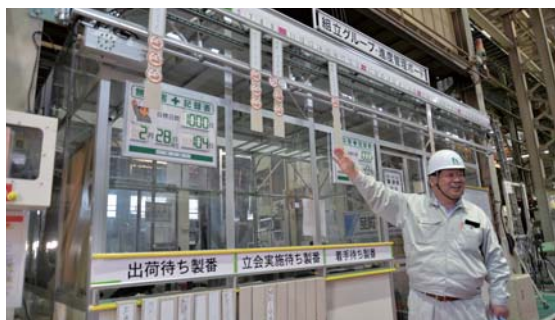


コストダウンと省力化を実現する当社独自のプレス機器 (左から湿式磁場成形プレス、揺動鍛造プレス、油圧式ファインブランピングプレス)

**お客様の要望に応えるために、  
いろいろな企業と連携して様々な工法を提案  
さらに、環境機器事業へも注力**

生産現場での精密鍛造加工における省エネルギー、省力化、コストダウンを追究し、お客様の大きな信頼を得てきた森鉄工。今日まで培ってきた製作実績とハイテク技術を駆使して、プレス機と周辺機器も含めたトータルなシステムを提案している。「弊社の現在の方向性としては、複合成形加工での工程の集約、コスト低減の実現を目標としていますが、それには単に機械を売るのではなく、加工や金型とマッチングした様々な工法を提案して、お客様の幅広いニーズに応えていきたいと考えています。そのためには弊社だけでは限界がありますので、いろいろな企業との連携が不可欠です。

これまでの実績としては、2012年度に『複動5軸油圧プレスによるクラッチハブ加工』で日本塑性加工学会・学会大賞をアイシン・エイ・ダブリュ株式会社様と共同で受賞。同年に日本鍛圧工業会のMF技術大賞を受賞。2014年度には『同期一貫生産システムの開発』で2度目の日本塑性加工学会・学会大



独自の工夫で徹底した進捗管理を実施している

賞を、株式会社デンソー様・旭サナック株式会社様と共同で受賞しました。今後も企業との連携を積極的に推進していき、新しい技術を開発し、提案していきたいと思っています。

さらに弊社では環境機器事業へも力を注いでいます。今まで逆有償で引き取られ、埋立処分されている「研磨スラッジ」に資源としての途を拓く物理的処理プラントの開発に成功し、『研磨スラッジ処理プラント、スラメルZシリーズ』として製品化。また、物理的手段による無公害・低コストを実現した、銑ダライ処理プラント『ブリケッティング・システム金属切粉自動圧縮・省力プラント』も開発しました。これらの取り組みは弊社の21世紀のプロジェクトとなりつつあります。」これからも取引先との信頼関係をより強固にするための努力は決して惜しまないと森社長は語る。

今後も森鉄工は生産現場の強力なパートナーとして歩み続けるに違いない。



無公害・低コストを実現する「金属切粉自動圧縮・省力プラント」

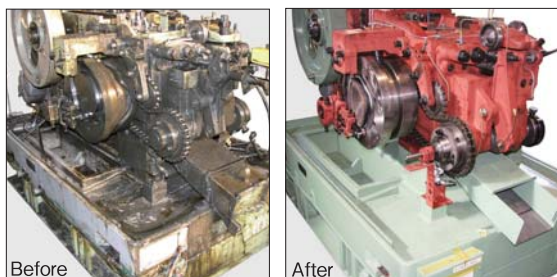
## 02 株式会社中島田鉄工所

# 高精度のヘッダー・フォーマーを製造 創業105年、高い技術力を誇る世界屈指のメーカー

多くのお客さまに支持され、  
圧造機械生産、いよいよ累計 10000 台突破

1911(明治44)年創業の中島田鉄工所は、鍛圧機械の専業メーカーとして、国内はもとより、アメリカ、ヨーロッパをはじめとする世界のメーカーに機械を納入している。その主力が長年にわたって高い評価を得ているヘッダー・フォーマーである。創業時は農業用肥料を混合する機械や番傘の竹製骨組みをつくる機械の製造を行っていた。その後、1935(昭和10)年より工作機械の生産を開始。クランクシャフトを再研磨するグラインダーの製造を手掛ける。1960(昭和35)年にコールドヘッダーの1号機が完成。そして1969(昭和44)年、日本初のフィンガーレス・トランスファー PF630 型が誕生する。「輸入機械に対抗するために開発した初の日本製 2D3B 機である PF630 型は、まさに中島田鉄工所のヘッダー発展の原点であり、納入メーカー様の他社との差別化に大いに貢献したヒット商品として語り継がれています。それから今日まで弊社の圧造機械生産が、ついに累計 10000 台を突破しようとしています。

また弊社では、生涯メンテナンスということで、これまで生産してきた機械の部品図面をすべて保管し、どんなに古くてもシリアルナンバーさえ分かれば部品の供給が可能になっています。現在でも古い機械を使っているお客さまがたくさんいるというのも弊社の強みといえます」。この驚異的な耐久性と長く使い続けられる機械ということで、多くのお客さまから高い信頼を得ている。一方、新製品の開発にも力を注ぎ、今年開催される MF-Tokyo 2017 へ、フィンガーレス・トランスファー XP6 を出展する予定であるという。



オーバーホール機は1974年製H20Aを2008年にオーバーホールしたものです。

海外市場への進出、  
世界 10 カ国に販売代理店網を展開

多くの国内メーカーが製造拠点を海外へシフトすると同時に、中島田鉄工所の機械が海外でも稼働するケースが増え、この流れからドイツ、アメリカ(ロサンゼルス)、中国(深圳)に海外拠点を設け、さらに現在では、韓国、タイ、オーストラリア、インド、イタリア、ロシア、トルコなど 10 カ国に販売代理店網を展開している。

「現在、国内と海外の受注比率は 5 分 5 分といったところでしょうか。海外市場は 2~3 年前までは好調なイメージがありましたが、アメリカをはじめヨーロッパでも以前と違い先行きの不透明感から動きがつかみにくく、一番大きな市場であるドイツでもヘッダー業界の設備投資が停滞しています。今は例年にも増してとても厳しい状況です。日本のメーカーも海外へ投資するよりは国内へという思いがあるのかもしれませんが。逆に中国をはじめとするアジアでは、一時期は品質より価格重視でしたが、特に中国では、最近、弊社の高度な機械の注文が多くなりました。耐久性や稼働の安定性、安心感といった品質がようやく求められるようになってきたようです。

また弊社の旧型機械が出回っているアジア各国では、アフターパーツの供給体制が整っていることが中古市場でも高い評価となり、海外でもサポートを展開し、アフターサービスの面でも確固たる信頼を得ています」。



とてもクリーンな機械工場



株式会社中島田鉄工所

〒 834-0196

福岡県八女郡広川町大字日吉 1164-4

TEL.0943-32-4331(代)

<http://www.nakashimada.co.jp>中島田 正宏  
代表取締役社長高速ヘッダーNPシリーズ  
2ダイ3ブローパーツフォーマー

最新鋭フィンガーレス・トランスファー「XP6」



### 今後の課題は人材育成や後継者づくり、 そして将来へ向けた取り組み

中島田鉄工所の理念に、ものづくりの精神を大切に  
する“人づくり”がある。「ここ10年、ドイツ  
でも人件費の圧縮が続いており、有能な技術者が  
減少しているといえます。ドイツだけでなく、世  
界的にも、もっと技術者にスポットライトを当て  
て、良い人材の確保や人材育成に力を入れていか  
ないといけません。なかでもプレスや圧造機の命  
である金型の設計・製作は後継者が減少しており、  
エキスパートの育成は今後の大きな課題といえま  
す。ドイツには圧造を専門に教えている学校(IFU)  
があり、弊社のNPシリーズを寄贈して、教育実  
習で活用してもらっています。また、アメリカイ  
リノイ州のロックバレーカレッジにも弊社の機械  
を寄贈しました。一方、日本でもオペレーターの  
教育をしてほしいという要望があり、愛知県春日  
井市にサービス拠点も兼ねた『名古屋テクニカル

センター』を開設しました。現在は弊社を含めた  
国内外4社共同で教育プログラムの制作を進めて  
います。これらの活動を通じて、多くの若い方に  
この業界は面白いと興味を持ってもらい、技術を  
受け継いでくれたらうれしいですね。

そして、中島田鉄工所が新たに取り組んでいる  
のが、宇宙へのチャレンジ。「10年ほど前から研  
究をはじめ、2011年から本格的に試作を開始した  
のが、今、宇宙で問題になっている宇宙ゴミ(スペ  
ースデブリ)を処理するための小型人工衛星用の分  
離機構や膜展開機構です。今年はその第一号機が  
宇宙に向けて飛び立ち、軌道離脱ミッションに成  
功しました。今後の展開がとても楽しみです」。

これからも人と伝統と技術革新を大切に  
して、常に未来を見据えながら、足元を確認しながら前  
進していきたいという中島田鉄工所の中島田社長。  
多くの信頼を得た機械の長きにわたる活躍と次代  
へのあくなき挑戦に今後も期待が高まる。



ドイツIFUにて



小型衛星搭載用薄膜展開式軌道離脱装置DOM2500

〒142-8558 東京都品川区小山1-3-26 東洋Bldg.

TEL : 03-5788-8330

代表者：代表取締役社長 兼 CEO 市原 裕史郎

会員代表者：執行役員 ガス事業部長 河野 靖彦

代表的な取扱品目：工業ガス、液化ガス貯槽、PSA式窒素ガス発生装置、ガス精製装置、ガス回収装置、MOCVD装置

大陽日酸株式会社は酸素、窒素、アルゴンをはじめとする工業ガスの製造・販売メーカーです。設立は1910年と古く、国産第一号の深冷分離装置を開発するなど工業ガスメーカーのパイオニアとして、日本の産業発展と共に歩んでまいりました。近年では、水素ステーションをはじめ、MOCVD装置、宇宙・低温、バイオ・メディカルといった幅広い分野において活躍のフィールドを拡げております。また、国内メーカーとしては、いち早く海外事業にも取り組み、北米、東南アジアを中心に展開しております。2014年には三菱ケミカルホールディングスグループの一員となり、化学を基盤とした、機能商品、素材、ヘルスケア分野で、グループ総合力による製品・技術・サービスの提供を通じた企業活動を行っております。

この度、日本鍛圧機械工業会に入会させて頂ききっかけとなりました窒素ガス発生装置は、長年培ったガス分離技術を用いた装置です。

最近では、ファイバーレーザー加工機の普及により、オンサイト型の窒素ガス発生装置のニーズが高まりを見せております。

当社では、お客様のニーズにお応えすべく、レーザー加工機のアシストガス専用窒素ガス発生装置を開発し、2011年より『レーザー加工用窒素ガス供給システム』として販売を開始致しました。

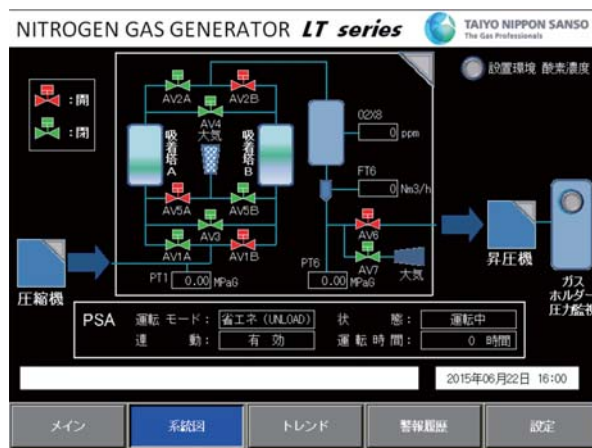
『レーザー加工用窒素ガス供給システム』は、特殊な吸着剤を用いて、大気中の空気から酸素分子を吸着させ、窒素ガスを得るPSA方式を利用したガス分離・製造装置です。



自社開発特殊吸着剤



レーザー加工用窒素ガス供給システム



レーザー加工用窒素ガス供給システムの制御パネル

レーザー加工機のアシスト窒素ガスは、瞬時に大量のガスを高圧で供給する必要があるため、窒素ガス発生装置に昇圧機とタンクをパッケージ化したシステムとなっています。また、ステンレスのクリーンカットに対しても自社開発した高性能吸着剤を用いることで99.999%という高純度窒素ガスを安定かつ効率的に供給可能としました。更に発生するガスの大きなコストウェイトを占める電力については、特許技術を使った省エネプロセスを採用し、無駄な電力がかからないよう省エネ化を徹底した他、設置される工場の環境を考慮し、省スペース、低騒音を実現しました。

最後になりますが、ガスのプロフェッショナルとして、ガステクノロジーを通じて、あらゆる産業と共に、未来豊かな社会の実現に貢献してまいります。

〒208-0023 東京都武蔵村山市伊奈平2丁目95-3  
 TEL: 042-506-8271 URL: <http://www.bystronic.com>  
 代表者: 代表取締役社長 ムヒカ・シーザー  
 会員代表者: 代表取締役社長 ムヒカ・シーザー  
 代表的な取扱品目: レーザ加工システム、プレスプレーキの販売サービス



紹介映像公開

Bystronicは1964年にスイスで設立され、1980年初期からレーザーカッティングシステムを開発し、機械の販売台数は急増しました。また、1988年に当社は最初のウォータージェット切断システム“ByJet”を開発しました。その後、1997年からはプレスプレーキの曲げ加工技術市場に参入しました。2000年代に入り、ヨーロッパ、アジアそしてアメリカと世界にまたがる販売・サービスのネットワークを構築し現在に至っております。

当社はシートメタル加工用システムを開発し、販売しています。その製品レンジは、レーザーおよびウォータージェット切断システム、プレスプレーキ、さらに関連するオートメーションおよびソフトウェアソリューションをカバーしています。また、包括的なサービスによりシステム運用を完璧なものにしています。

ニーダーエンツ(Niederönz スイス)の本社ではレーザーおよびウォータージェット切断システムを、ゴータ(Gotha ドイツ)ではプレスプレーキを開発・製造しています。また、天津(Tianjin 中国)でも成長を続ける市場の要求に個別対応したレーザー切断システムとプレスプレーキの開発と製造を行なっています。

当社は約30の販売およびサービス支社により世界中で事業を展開しており、それ以外の多くの国でも代理店を通じて活動しています。



Bystronicのレーザー切断システムとプレスプレーキは、鋼、ステンレス鋼、アルミニウム、およ



び非鉄金属の加工に使用されています。ウォータージェット切断システムは、発泡材からチタニウムまで、想像できるあらゆる材料の加工が可能です。

バックグラウンドでは、オートメーションおよびソフトウェアソリューションがこれらの加工ステップをサポートし、材料とデータのすべての流れを効率的なものにしています。自社ソフトウェアパッケージであるBysoft7は、すべての切断および曲げ加工プロセスを制御およびモニタリングします。機械コントローラのByVisionもまた自社開発したものです。これらの最新技術により、機械、部品、そしてオペレータが相互にリアルタイムで通信し合うネットワーク化された製造プロセスを構築できます。

Bystronicは全世界に広がるサービス技術者のネットワークを擁しています。すべての海外支社にはそれぞれ専用のスペアパーツ倉庫があり、また多くの支社が実演のためのデモセンターを持っています。



## MF技術大賞2016-2017表彰式と2017賀詞交歓会を開催

1月11日に芝パークホテル（港区・芝公園）で、MF技術大賞表彰式が執り行われました。川西宣明日鍛工会長の挨拶に続き、選考委員会の石川孝司委員長（中部大学 教授・名古屋大学 名誉教授）から講評が述べられました。

MF技術大賞は「β型チタン合金製部品の一体成形～サーボプレスで成し得た工程削減～」（アイダエンジニアリング/シャルマン）、「レーザーブランピング装置による自動車部品ブランク材製造」（エイチアンドエフ/ホンダエンジニアリング、本田技研工業）、「フローフォーミングによるローターシャフトの製造」（日本スピンドル製造/日産自動車）の3件が受賞。

MF技術優秀賞では「3Dレーザー加工機によるチタン製自動車用フレーム加工」（コマツ産機/服部板

金工業）、「冷間鍛造用サーボプレスによるサスペンションマウントの工程短縮」（コマツ産機/宮本工業）、「複合加工センサを用いたファイバーレーザによるブラケット加工」（村田機械/田中精密板金）3件が表彰されました。

また、今回から創設されたMF奨励賞は「サーボタンデムプレス7台によるダンパー部品のプレス加工」（アイダエンジニアリング/エクセディ）、「ツインサーボプレスと高速タンデムトランスファラインによる自動車エアコン用ハブ加工」（アマダホールディングス/アマダマシンツール/デンソー機工）、「サーボプレスによるクラッチディスクのかしめ加工」（コマツ産機/アイシン精機）、「プレス方式の圧縮脱水装置によるバイオマス発電向け脱水木質チップの製造」（川崎油工/トーセン/岩手大学）



石川委員長による講評

表彰式後に開催された賀詞交歓会では、川西会長、経済産業省素形材産業室長の蘆田和也様、日本塑性加工学会会長の山崎一正（日本金属 常任顧問）様からご祝辞を頂戴しました。また、新入会員「バイストロニックジャパン」の紹介、宗田世一副会長の乾杯の音頭で会はなごやかに進みました。今回も前回同様約250名の皆様にご参加頂きました、ありがとうございました。



川西宣明会長の主催者挨拶



ご祝辞を述べる蘆田和也室長



日本塑性加工学会から山崎一正会長がご祝辞



新入会員のバイストロニックジャパンムヒカ・シーザー代表取締役社長



宗田世一副会長から乾杯の発声



大盛況の懇親会会場



MF技術大賞・優秀賞受賞者の記念撮影

### 中部関西地区部会 工場視察見学会を開催

中部関西地区部会（阿比留憲史部会長）は、情報交換と懇親を深めるために、ヤマザキマザック2社の視察見学会を開催した。ヤマザキマザックマニュファクチャリング(株) 田嶋富男執行役員より、ヤマザキマザックの創業当時の話や現在の状況が説明された後、工場を見学。その後ヤマザキマザックオプトニクス(株)へ移動。棚橋誠執行役員より会社や工場設備についての説明があった。

犬山にて懇親会を行い、和やかで有意義な部会となった。

開催日：2017年2月10日（金）

視察先：ヤマザキマザック2社工場（岐阜県美濃加茂市）

参加人数：16名



### 中小企業青年委員会 経済連携協定(EPA)活用講習会

中小企業青年委員会（網野 雅章委員長）は、「経済連携協定(EPA)活用講習会」を開催した。世界情勢も変化する中、EPA等の情報を深めることができ、講師を迎えての懇親会でも情報交換等を行い、有益な講習会となった。

開催日：2017年1月24日（火）

開催場所：機械振興会館

参加人数：16名



### 中小企業青年委員会 平林亮子先生 事業継承セミナー

中小企業青年委員会（網野 雅章委員長）は、「平林亮子先生 事業継承セミナー」を開催した。事業承継で役立つ項目や言葉をわかりやすく解説いただき、次期経営者にとって意義深い講演であった。講演後の懇親会では、平林先生をお迎えし和やかなひとときとなった。

開催日：2017年2月24日（金）

開催場所：機械振興会館

参加人数：12名



## 概要

台湾最大の工作機械、鍛圧・板金機械の総合展示会で、隔年に1回開催されており、今回が26回目の開催となる。

■会期 2017年3月7日(火)～12日(日) 6日間

### ■主催者

中華民國對外貿易發展協會  
(Taiwan External Trade Development Council: TAITRA)  
台湾機械工業同業公會  
(Taiwan Association of Machinery Industry: TAMI)

### ■来場者数

月日	3/7(火)	3/8(水)	3/9(木)	3/10(金)	3/11(土)	3/12(日)	合計
海外来場者数	2,321	1,707	1,514	933	645	219	7,339
国内来場者数	4,404	5,620	6,728	7,373	12,177	6,505	42,807
合計	6,725	7,327	8,242	8,306	12,822	6,724	50,146

展示会場が3か所に分散して存在し、全会場を見て回るのにはバス、地下鉄で移動しなければならないという不便さがある。しかしながら、海外からの来場者も多く、全体の15%を占めており、国際展示会に相応しい構成となっている。もちろん多くは中国本土からであるが、東南アジア、インドからの来場者も目を引いた。

### 会場の様子 TWTCホール1

板金機械を中心に、レーザ加工機、プレスブレーキ、放電加工機、ロボットなどを中心に、日系直営、ドイツ系の加工機メーカの出展で賑わっていた。

### 会場の様子 エキスポドーム

この会場には、プレス機械をはじめとする鍛圧機械が展示されていた。日本メーカの出展は無く、恐らく地元メーカが大半を占めているものと思われる。各会場間は無料シャトルバスが運行されているが、このエキスポドームはメイン会場の南港会場、TWTCホール1からバスで30分程掛かる離れた場所にあり、また会場自体も小さく約40社の出展のためか、閑散としていた。

### 会場の様子 台北南港

この会場は、二層構造の会場で工作機械が集結していた。1階、2階とも来場者も多く、活気に溢れていた。日本メーカの看板がかなり見受けられたが、日本メーカの直接出展ではなく、台湾代理店の出展によるものが多い様子であった。会場ではドイツパビリオンとスイスパビリオンが設けられていたが、これも各々の国の台湾代理店で構成されている様で、MF-Tokyo展の今後の参考になると感じた。

### 会場の様子 TWTCホール3

この会場は、TWTCホール1から徒歩5分程離れた所に位置している。天井が低いため大型の機械等の展示には向いていないためか、測定器や計測器をはじめ、様々な分野の製品が出展されていた。離れた場所に位置する展示構成は、日本ではなかなか受け入れられないと思われるが、そこに台湾の大きさを感じた。

### 会場の様子 日鍛工ブース

日本鍛圧機械工業会は、TWTCホール1に9m<sup>2</sup>の情報ブースとして出展し、今回は中小企業代表の代表2社を募って共同出展を行った。TWTCホール1は、板金機械が中心の展示会場ということもあり、主に板金機械を製造・販売されている下記2社が出展することになった。日鍛工は、会員企業紹介のパンフレット配布及びMF-Tokyo 2017訪問勧誘。株式会社相澤鐵工所は、モニターとカタログを使いプレスブレーキ、シャーの紹介、コータキ精機株式会社は、粉末成形機、プラズマ切断機の紹介を通じて新規顧客の開拓に取り組んでいた。

### ■会場

- ①台北世界貿易センター (TWTC)  
展示ホール1及び3-----主に板金機械
- ②エキスポドーム-----主にプレス機械
- ③台北南港-----主に工作機械

### ■出展規模

国内	770	4,361
海外	330	1,069
合計	1,100	5,430



エキスポドーム



南港会場のスイスパビリオンとドイツパビリオン



日鍛工ブース



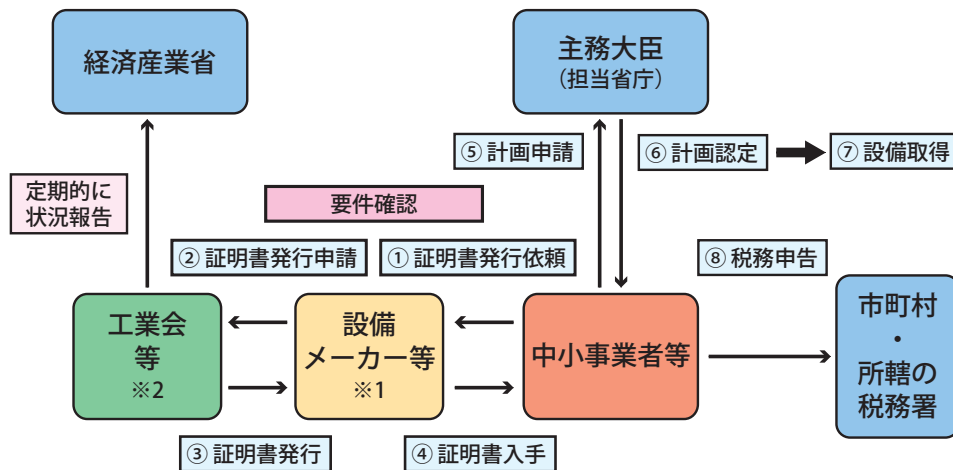
## 報告Ⅳ 中小企業経営強化税制(2017年4月1日以降施行)の証明書について

2017年3月15日より施行、4月1日よりの受付が予定されている中小企業経営強化法による税制優遇措置は基本的にこれまでの生産性向上設備投資促進税制と同じですが、以下の点が異なります。

- ① 経営力向上計画書を作成し、主務大臣に計画認定を受ける。(固定資産税軽減措置と同じ)
- ② 設備の要件から「最新」がなくなり、納入時から遡り10年以内に発売の機械である事。
- ③ 大企業は本税制から外れて優遇措置はありません。

### 新証明書式について

- ① 新証明書は固定資産税軽減措置と税制優遇措置の申請を兼用することになりますので、個々に取得する必要はなくなります。
- ② 新証明書書式は準備でき次第日鍛工HPにアップします。受付は4月1日以降とします。
- ③ 証明書の証明者欄はこれまで工業会会長名にて発行していましたが、今回より工業会責任者で良いとの見解が示されましたので、専務理事名とします。



## 報告Ⅴ 第15回「天田財団助成研究成果発表会」の開催案内

天田財団は、金属等の塑性を利用した加工や高密度エネルギー下での諸特性を利用した加工に関する研究助成を通じて、学術の振興と新しい科学技術の創出を図り、産業と経済の健全な発展に寄与します。また、助成研究成果の普及啓発も事業の一環と位置づけ、一般社団法人日本塑性加工学会のご協力により、本年も「天田財団助成研究成果発表会」を開催させていただきましたことになりました。今回は「金型の最新技術動向」を主テーマに、発表会と産業界の方も交えたパネルディスカッションを行います。

■ 日時:平成29年6月8日(木) 13:00~17:30

■ 会場:じゅうろくプラザホール(じゅうろくプラザ2階)  
(〒500-8856 岐阜市橋本町1丁目10番地11)  
JR岐阜駅 徒歩約2分

### ■ 講演内容

#### 1. 特別講演

『金型表面処理の技術動向と今後の展望』  
岐阜大学特任教授 土屋 能成 氏

#### 2. 講演

- ① EBポリッシングによる超高能率金型表面仕上げ技術の確立  
岡山大学大学院教授 岡田 晃 氏
- ② ステンレス箔に対する高温加熱・ガス圧成形を利用した金型製造技術に関する研究  
福岡県工業技術センター機械電子研究所  
精密加工チーム長 谷川 義博 氏
- ③ マイクロスケールの微細構造金型による機能表面加工  
東京電機大学教授 松村 隆 氏

#### 3. パネルディスカッション

『金型の最新技術動向』  
コーディネーター 岐阜大学教授 王 志剛 氏

申込締切日:平成29年6月2日 参加申し込みはホームページ <http://www.amada-f.or.jp>  
問い合わせは、天田財団事務局 TEL.0463-96-3580 FAX.0463-96-3579

## 新聞報道 から見た 会員動向

日刊工業新聞、日経産業新聞、日本経済新聞、全国紙、一般紙などに掲載された会員の記事を抄録して順不同で掲載します。

今回は、2016年12月16日から2017年3月15日に掲載された記事が対象ですが、決算、人事などの情報は除外しています。

### 日本鍛圧機械工業会+共通

- 2月の鍛圧機械受注、28%増の275億円-2カ月連続プラス  
2017/03/14 日刊工業新聞 9ページ 335文字 PDF有
- 1月の鍛圧機械受注、17%増の249億円-2カ月ぶりプラス  
2017/02/10 日刊工業新聞 10ページ 417文字 PDF有
- 昨年の鍛圧機械受注、8.4%減の3112億円-日鍛工まとめ  
2017/01/17 日刊工業新聞 7ページ 498文字 PDF有
- 17年賀詞交歓会/鍛圧機械工業会/17年受注3200億円予想  
2017/01/13 日刊産業新聞 5ページ 662文字
- 「MF技術大賞」3製品選定-日鍛工、鍛圧加工技術を顕彰  
2017/01/09 日刊工業新聞 7ページ 1763文字 PDF有

### プレス機械系

#### ■アイダエンジニアリング

- 第59回十大新製品賞/本賞-アイダエンジニアリング  
2017/01/30 日刊工業新聞 16ページ 998文字 PDF有
- 神奈川県内創業100周年、相鉄HDなど27社、今年、民間調べ。  
100周年のアイダエンジニアリング...  
2017/01/25 日本経済新聞 地方経済面 神奈川 26ページ 359文字  
PDF有
- アイダエンジニアリング/生産性1割向上のサーボプレス機  
2017/01/16 日刊工業新聞 21ページ 198文字 PDF有
- アイダエンジニア、ホンダ・中国工場にプレス成形ラインを納入  
2017/01/12 日刊工業新聞 1ページ 548文字 PDF有

#### ■日本電産シンボ

- 日本電産シンボ、自動車向け大型プレス機の生産・サービスで  
世界3極体制  
2017/03/09 日刊工業新聞 9ページ 589文字 PDF有

#### ■栗本鐵工所

- 栗本鐵工所、炭素繊維複合材、安く量産、自動車向け、材料費10分の1。  
栗本鐵工所は炭素繊維強化プラスチック(CFRP)部品...  
2017/03/10 日経産業新聞 17ページ 絵写表有 1011文字 PDF有
- 栗本鐵工所、日産にCFRP部品納入-加工装置からリサイクル  
など総合提案  
2017/01/18 日刊工業新聞 1ページ 602文字 PDF有

#### ■三起精工

- 三起精工、16日から本社組立工場内で内覧会  
2017/02/08 日刊工業新聞 6ページ 229文字 PDF有

### 板金機械系

#### ■アマダ

- アマダHD、生産部門集約-2020年、60億円コスト改善  
2017/02/20 日刊工業新聞 1ページ 625文字 PDF有
- アマダミヤチが発売/交流インバーター式溶接電源  
2017/02/17 日刊産業新聞 2ページ 800文字
- アマダマシンツール/剛性40%増の冷間鍛造サーボプレス機  
2017/02/06 日刊工業新聞 19ページ 203文字 PDF有
- アマダ、東欧・韓国に営業拠点-20億円投じ、板金機械拡販  
2017/01/20 日刊工業新聞 1ページ 410文字 PDF有
- 十大新製品賞、アマダ・ファナックなど受賞-日本力賞に日立など3件  
2017/01/04 日刊工業新聞 1ページ 976文字 PDF有

#### ■ヤマザキマザック オプトニクス

- ヤマザキマザック/DDDLレーザーを発売/高品質・高効率に加工  
2017/03/09 日刊産業新聞 5ページ 535文字

#### ■ファナック

- 「賢い工場」覇権争い、三菱電機やファナック、インフラ提案。  
...月以降に始めると発表。ファナックも同様の仕組みをすでに...  
2017/03/07 日経産業新聞 15ページ 767文字 PDF有
- ファナック、IoT磨く、ロボの故障予知、米で成果、つながる工場へ仲  
間作り(日経電子版から)  
1面から続くファナック米国法人が売り出...  
2017/03/06 日経産業新聞 15ページ 絵写表有 1418文字 PDF有
- ファナック、故障対応などサービス強化-愛知に新拠点、海外は10カ所計画  
2017/01/06 日刊工業新聞 1ページ 505文字 PDF有
- 十大新製品賞、アマダ・ファナックなど受賞-日本力賞に日立など3件  
2017/01/04 日刊工業新聞 1ページ 976文字 PDF有

#### ■大陽日酸

- 溶断機メーカー日酸 TANAKA 創業100周年/「厚板レーザ」の  
代名詞/技術改良、ソフト開発に注力/自動化・効率化、生産性  
向上に貢献/  
2017/03/15 鉄鋼新聞 6ページ 4258文字
- 大陽日酸、金属ナノ粒子を4億円事業に-20年度めどに接合材用  
途を提案  
2017/02/27 日刊工業新聞 10ページ 898文字 PDF有

#### ■協和マシン

- 協和マシン、組立工場新設-板金自動曲げ加工機など、生産能力5割増  
2016/11/22 日刊工業新聞 8ページ 518文字 PDF有

### フォーミング機械系・その他

#### ■中田製作所

- 変わるモノづくり 3Dプリンターの活用(38) 中田製作所  
2017/03/09 日刊工業新聞 5ページ 786文字 PDF有

#### ■中島田鐵工所

- 福岡県/超小型衛星の実験に成功 広川町の中島田鐵工所など発表  
「宇宙ごみ」解決 事業化期待/筑後  
2017/03/03 西日本新聞朝刊 22ページ 462文字 PDF有

#### ■宮崎機械システム

- 宮崎機械システム/門型5軸加工機導入  
2017/03/15 鉄鋼新聞 3ページ 471文字

▶ 鍛圧機械 全会員受注グラフ (月次業況調査)

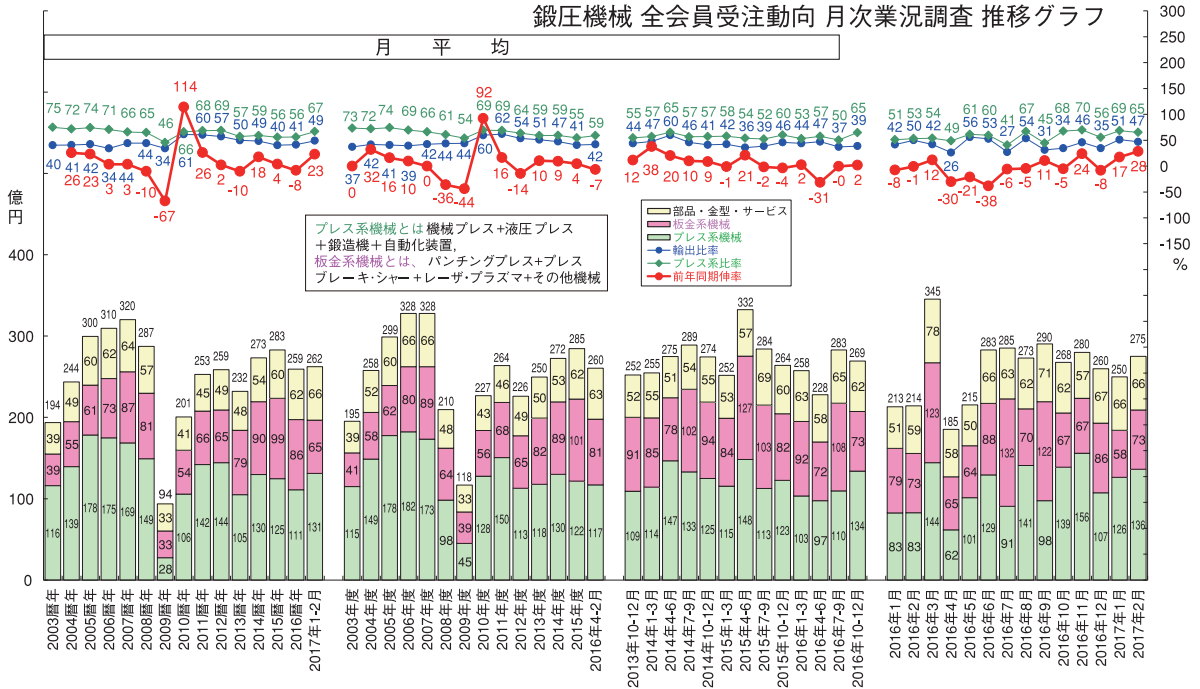
一般社団法人日本鍛圧機械工業会

2017年3月10日

2017年2月度 鍛圧機械 全会員受注動向 月次業況調査コメント

- 概況 受注総合計は275.1億円、前年同月比28.5%増となった。プレス系は国内外共に前月に続きプラスと健闘、板金系は輸出の落ち込みを国内でカバーし微増となった。北米向大型プレスに支えられて全体受注の底上げとなったが、輸出向を中心に設備投資への先行き不透明感は拭えず、本格的回復は見通せない。
- 機種別 プレス系機械は136.6億円、前年比64.4%増。超大型が98.9%増、大型が4.8倍増、中型69.7%増、小型も52.5%増。油圧プレスは11.6%増だがフォーミングは17.6%減、自動化・安全装置は30.5%増。板金系機械は72.8億円、前年比0.1%増となった。プレスブレーキは47.2%増だが、パンチング10.0%減、レーザー・プラズマも19.6%減となった。
- 内外別 国内は110.9億円、前年比42.5%増。金属製品製造業は27.2%増、自動車18.4%増、一般機械29.0%増、鉄鋼・非鉄金属は4.3%増、電機も20.0%増となった。(機種計)輸出は98.1億円、前年比26.2%増。北米向が3倍増、韓国・台湾向84.6%増だが、中国向37.1%減、東南アジア向17.0%減、欧州向60.4%減、インド向も69.2%減となった。

鍛圧機械 全会員受注動向 月次業況調査 推移グラフ



▶ 鍛圧機械 全会員受注グラフ (業況調査)

一般社団法人日本鍛圧機械工業会

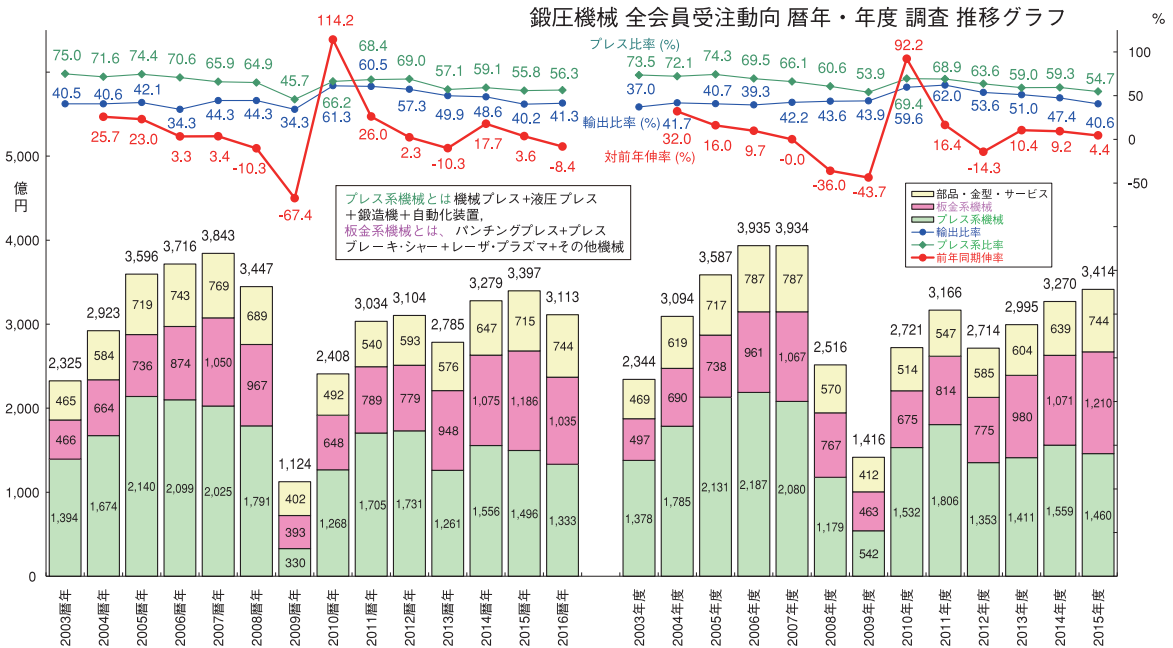
2017年1月13日

2016年度 鍛圧機械 全会員受注動向業況調査コメント

2017年1月13日

- 概況 受注金額は3,113億円、前年比8.4%減。国内は物づくり補助金や投資促進税制等による更新需要を喚起するも前年割れ。輸出も牽引役不在で2年連続前年割れとなった。
- 機種別 (機種合計) サービス・部品・金型等は前年比4.1%増だが、プレス系が1,333億円、前年比10.9%減。機械プレスは全体で10.8%減、油圧プレスが2.8%減、フォーミング8.0%減、自動化・安全装置も27.2%減。板金系は1,035億円、前年比12.7%減。レーザー・プラズマは0.6%減、パンチングが21.5%減、プレスブレーキも15.0%減となった。
- 国内業種別 (機種合計) 国内向は1,390億円、前年比13.3%減。自動車は3.7%増、鉄鋼・非鉄金属も9.7%増だが、金属製品製造業が29.8%減、一般機械は13.2%減、電機も2.7%減となった。
- 輸出地域別 (機種合計) 輸出向は979億円、前年比9.3%減。北米は0.2%減だが堅調に推移した。中国は12.8%減、韓国・台湾が10.3%減、東南アジアは15.2%減、インドが14.1%減、欧州も27.4%減となった。

鍛圧機械 全会員受注動向 暦年・年度 調査 推移グラフ



# 一般社団法人 日本鍛圧機械工業会 会員一覧

2017年4月1日現在 五十音順・法人格省略

## 会員 (113社)

相澤鐵工所	ソノルカエンジニアリング
アイシス	大東スピニング
アイセル	大同マシナリー
アイダエンジニアリング	ダイマック
アサイ産業	大陽日酸
浅野研究所	高千穂システムエンジニアリング
旭サナック	タガミ・イーエクス
旭精機工業	伊達機械
アマダホールディングス	ティーエスエイチインターナショナル
アミノ	ティーエス プレシジョン
IHI 物流産業システム	東和精機
板屋製作所	トルンプ
エイチアンドエフ	中島田鉄工所
エーエス	中田製作所
エー・ピーアンドティー	ニシダ精機
エステーリンク	ニッセー
エヌエスシー	日本オートマチックマシン
榎本機工	日本スピンドル製造
大阪ジャッキ製作所	日本電産シンボ
大阪ロール工機	日本ムーグ
オーセンテック	能率機械製作所
大峰工業	Baykal Japan(バイカル ジャパン)
オプトン	バィストロニックジャパン
オリイメック	パスカル
型研精工	日高精機
金澤機械	日立オートモティブシステムズ
川崎油工	ファインツール・ジャパン
川副機械製作所	ファナック
関西鐵工所	ファブエース
ギア	富士機工
キャドマック	富士商工マシナリー
キョウシンエンジニアリング	フリーベアコーポレーション
協和マシン	放電精密加工研究所
栗本鐵工所	ホンダクリエイティブ
京葉ベンド	松本製作所
ゲルブ・ジャパン	マテックス精工
小池酸素工業	万陽
向洋技研	三菱長崎機工
コータキ精機	宮崎機械システム
小島鐵工所	村田機械
コニック	メガテック
コマツ	モリタアンドカンパニー
コマツ産機	森鉄工
コムコ	ヤマザキマザックオプトニクス
小森安全機研究所	山田ドビー
阪村機械製作所	山本水圧工業所
阪村ホットアート	油圧機工業
サルバニーニジャパン	ユーロテック
三起精工	ユタニ
三共製作所	吉田記念
サンテクス	ヨシツカ精機
しのはらプレスサービス	吉野機械製作所
芝川製作所	理研オブテック
澁谷工業	理研計器奈良製作所
蛇の目マシン工業	理工社
杉山電機システム	ロス・アジア
住友重機械工業	



## 会報METAL FORM No.62 2017年4月

2017年4月1日発行 No.62 (季刊1,4,7,10の月の1日発行)

発行所 一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館3階 電話03(3432)4579(代)